

最近、TVなどでよく取り上げられている『COPD』。どんな病気か興味を持たれている方もいらっしゃるのではないのでしょうか？そこで今回は『COPD』に関するお話です。

◆ 肺の生活習慣病『COPD』

タバコというと、肺がんを思い浮かべる方が多いかもしれませんが、COPDは『タバコ病』と呼ばれるくらい喫煙と深く関係している病気です。COPDは『Chronic Obstructive Pulmonary Disease』の略で、日本語では『慢性閉塞性肺疾患』といい、長年の喫煙が主な原因となり、肺や気管支の組織が壊れて、呼吸がうまくできなくなります。COPDで一度失われた肺の働きは元には戻りませんが、早期の予防や治療により、進行・悪化を防ぐことができます。

◆ どんな症状なの？

最初は咳や痰、息切れが起こり、風邪の症状に似ていますが、COPDは風邪を引いていなくても咳が続き、進行すると次第に息切れがひどくなり、階段や坂道を上るときだけでなく、ちょっとした日常動作だけで息切れを感じるようになります。最終的には会話も息切れの為に困難になり、酸素ボンベが手放せない生活になってしまいます。

下記のチェックで、ご自身に該当するものがあるか確認してみてください。

＜COPDセルフチェック＞

- ☐ タバコを吸っている！
- ☐ 同世代と比べて、息切れしやすい！
- ☐ 階段を上るときなど、すぐ息切れする！
- ☐ 風邪を引いているわけでもないのに、咳や痰が良く出る！
- ☐ 休み休みでないと、歩くのがつらい！



慢性の咳や痰、動いたときの呼吸困難といった症状の何れかがあれば、COPDを発症している可能性があります。一度、医療機関を受診し、専門家に相談しましょう！

◆ 原因の殆どが“タバコ”です！

年齢や喫煙歴等により症状に程度の差はあるものの、喫煙者の肺年齢は実年齢より10～20才も高いことが多く、最終的には喫煙者の半数以上が、COPDを発症すると言われています。

また、肺の病気だけではなく、他の病気とも関連していることが判ってきました。

COPDが進行すると、肺の炎症や全身の衰弱により、肺炎・肺がん・高血圧・心不全・胃腸障害・骨粗鬆症・糖尿病・うつ病などを併発しやすくなります。非喫煙者でも、日常的に受動喫煙にさらされている場合は、COPDを発症するリスクを否定できません。

COPDの死亡者数は、年々増加し全体死亡順位で9位となっています。(厚労省平成23年人口動態統計概要より) COPDは、全身の病気や健康に係わる病気です。初期症状である咳や痰、息切れは普段の生活でもよくあることですが、長引いているのに『風邪のせい』『年のせい』で済ませていませんか？長引く場合は、COPDを疑い、早めに医療機関を受診することが大切になります。